

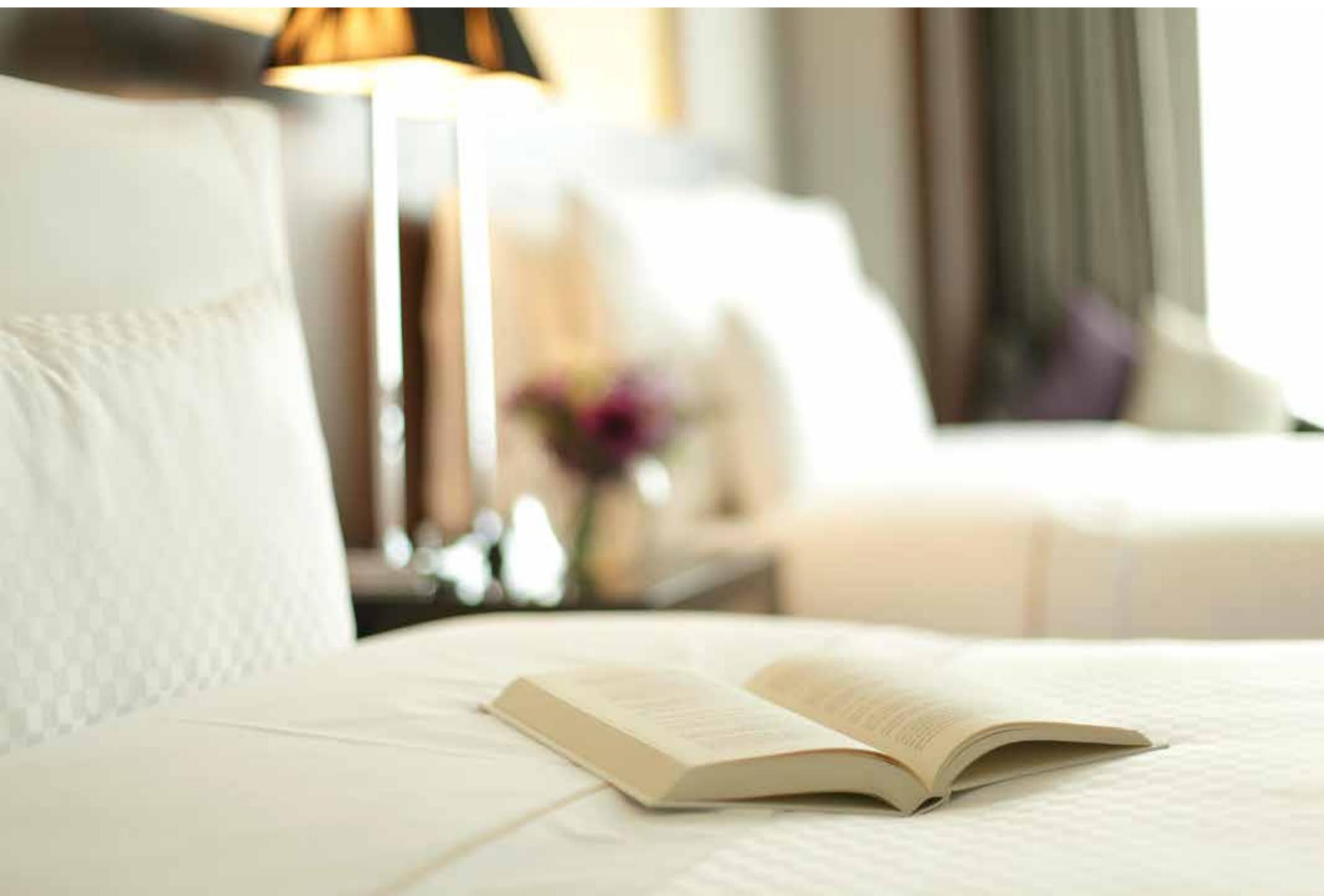
THE WESTIN

SENDAI

12ヶ月のブログリレー

わたしの仙台ストーリー

8月の旅人





- ・この地図は Google マップサービスを利用しています。
- ・地図内のルートは旅人の訪問地、訪問順に基づき、Google マップの仕様に合わせておすすめのルートを作成したもので、旅人が実際に使用したルートと異なる場合があります。
- ・当データからリンクしている Google マップページについては、Google の責任の下、管理されているものであり、Google に起因する不具合等について当ホテルはいかなる責任も負いません。



8月の旅人

クリハラ 様 [宮城県・女性]

昔住んでいた仙台の街を歩いて、タイムスリップしたような気分を楽しみたい。



夜の壱式参 (いろは) 横丁



SS30から見るウェスティンホテル仙台



仙台ホテル跡地にできた EDEN



HerbSENDAI 1階のオープンカフェ

七夕祭りが終わって少しづつ秋へと移行しつつあるこの季節、仙台の街は、緑が生い茂り、私たちに夏の最後を楽しませてくれる。

8年前、私は仙台で仕事をしていましたが、結婚し職場を離れ、福島市、大崎市と移り住んだ。今住んでいる大崎市は、仙台まで車で約1時間、新幹線ではわずか15分というところにある。大崎市に居を構え、仙台の仕事場まで通勤する人、あるいは仙台に居を構え大崎市の仕事場に通う人が多く、最終の新幹線に乗ってしまえば22:30には家に帰れるという交通の便の良いところである。そのため、今の私には仙台へ泊まりがけで出かけるという意識は全く無くなってしまっている。

今回、そんな私に幸運が舞い降りウェスティンホテル仙台に宿泊し、「わたしの仙台ストーリー」の締めくくりに8月を担当させていただけることになった。普段はそろそろ帰ろうかという夕方を通り越し、忘れかけていた夜の仙台を楽しむ機会と、終電を気にせず街を楽

しめる時間、不意に訪れた幸運を素直に喜ぶことができた。

8年前、仕事をし、友達と飲み歩いていたころの仙台は、とても楽しくて魅力的だった。あれから、東日本大震災が起こり、私自身は1児の母となった。8年前には想像できなかったことが数々起こった。

そこで今回のストーリーは、夕刻から夜の街を歩き、昔を思い出し、変わらない良さを感じ、同時に変化した仙台の良さも発見していきたいと思う。

さて、ストーリーは SS30 から始めたいと思う。宮城県に住んでいても SS30 に上ったことがあるという人は少ないのではないだろうか。私は子供のころに親の仕事の都合で2年間だけ仙台に住んでいたことがある。ちょうどそのころに SS30 が完成し、是非行ってみなくてはと両親に連れられ訪れた記憶がある。天気が良ければ遠くのほうにキラキラと海が光り、見下ろす仙台の街がものすごく

THE WESTIN SENDAI

8月

12ヶ月のブログリレー
わたしの仙台ストーリー



ウェスティンホテル仙台と今回の旅の経路

都会に感じられた。今改めて上ってみると、目の前にはウェスティンホテル仙台がそびえる。

あのころはSS30に匹敵する高さのビルができるとは想像すらできなかった。ウェスティンホテル仙台ができて、SS30から見える景色は一変し、仙台が豊かな自然と都会の顔をもっていたことがより一層感じられる。

ウェスティンホテル仙台は、立地が良く、仙台駅や仙台の老舗百貨店である藤崎へ同じくらいの距離で行くことができる。少し足を延ばせば、[せんだいメディアテーク](#)までもが徒歩圏内である。昔よく歩いていたこの辺りを地図の→の順に回っていこうと思う。

次は仙台駅方面へ。ペDESTリアンデッキから見る風景は大きく変わり、Solala やパルコができた。そして無くなってしまったのが歴史のあった仙台ホテルである。重厚で威厳のある建物の仙台ホテルが無くなり、駅前の雰囲気が大きく変わったように思う。その跡地に造られたのが EDEN という複合商業施設だ。敷地内には多くの店舗があり、街中でも緑が多く、気軽に座って誰もがひと休みできるようになっている。



ペDESTリアンデッキからのSolala



せんだいメディアテーク1階 カフェ



南国感あふれるマカン外観



なぜか惹かれる文化横丁

次に向かったのがアエル向かいのHerb 仙台。前は一階に小さな飲食店が入るビルだったように思うが、今では仙台の美味しい店が入った飲食ビルとなっている。一階はオープンカフェになっており仙台駅前の華やいだ雰囲気と活気に一役買っている。その近くにあった古びたバスセンターは前と比べものにならないほど新しいビルになっていた。古い券売機と小さなトイレ、ビニール椅子で帰省のバスを待っていたのを懐かしく思いだした。

そこから仙台フォーラス、三越を超え、せんだいメディアテークへ向かう。この建物は伊東豊雄の代表作として世界的に有名である。そこは自分の感性が磨かれ、五感が刺激される大好きな場所の一つだ。1階には夜21:00まで開いているカフェがある。図書館で調べ物をした後、映画を見た後、イベントに訪れた際、定禅寺通りを散歩してふらりと立ち寄ってコーヒーやビールを飲むことができる場所だ。久しぶりに訪れ、こんな素敵な場所が公共施設としてあり、誰もが利用できる場所がある仙台を改めていい街だなと思った。

定禅寺通りを歩き、ぶらんどーむ一番町を通って藤崎のほうへ。このアーケードで変わったところはなんとといっても HMV がなく

なったことだ。当時はスマートフォンがなくて、簡単にランキングをみたり、音楽をダウンロードできなかったのも、お店でたくさんの音楽を視聴し、いろいろと欲しいCDを探したのもだった。2010年に閉店した時は地方ニュースにもなり、淋しい思いをした記憶がある。そんなことを思い出しながら青葉通りを越えてサンモール一番町の方向へ。アーケードから少し入ったところにあるマカンは夜になりライトが灯るとそこだけ南国感が漂う、昼間とは全く違った雰囲気になる場所である。ここは何も変わらず昔のままだ。

アーケードを挟んでマカンの反対側には[文化横丁](#)がある。昼はひっそりとして目立たないのに夜になるとぐっと存在感が増してくる場所である。初めてではなかなか入りづらいが、小さくて面白い店がたくさんある。

文化横丁にほど近いところに[壺式参\(いろは\)横丁](#)がある。ここは昼と夜で開いている店が違うので文化横丁と同じ様に、夜になった時の雰囲気が独特で面白い。中にある店は変わったものの、横丁全体の雰囲気は前とそう変わらない。駅前のような若さや派手さはないが、中を通るだけでわくわく、ドキドキする横丁である。

8月

12ヶ月のブログリレー
わたしの仙台ストーリー



横丁近くの書店 金港堂の変わらない佇まい

だいぶ歩き疲れたのでホテルへと戻る。建物に入った途端にいい香りがし、静まり返った柔らかい明るさのホテル内は、街の喧騒を忘れさせ一瞬で非日常へと連れて行ってくれる。窓から見える夜景がそれに拍車をかけ、さらにヘブンリーベットが歩き疲れた体を癒してくれ、私をすぐ眠りに繋げてくれた。



朝市入口

このストーリーで歩きたいところがもう一つ、[仙台朝市](#)である。夜に仙台にいないということは当然朝も仙台で迎えない。朝市と言いながら夕方までやっているのだが、一度くらいは午前うちに訪れてみたいと思っていた。ということで、次の日はまず仙台朝市へ。昔は仕事が休みになったら日中に来て少しの野菜や果物、惣菜などを買っていたのだが、結婚して家族の体調管理を気にすると、同じ朝市でも見たいところや買いたいものが変わってくる。スーパーにはない面白さがあり、毎日来たいなと思いつつ食材をいくつか購入し、ホテルへと戻る。



仙台朝市にあるコロッケ屋の看板



フロー スパ入口



リラクゼーションルームからの眺め

部屋に戻った後は楽しみにしていたフロー スパのボディケア。泊まった部屋からは仙台の街並みが見られたが、スパのほうからは西に広がる緑が見られ、全く違う景色が楽しめる。施術のために入る部屋は薄暗く、体の力を抜いてベットに横たわるだけでも気持ちがいい。セラピスト佐々木さんの手の温かさや、込められる絶妙な力加減が直接体の疲れを癒すだけでなく、何も考えずにいられる無の時間を作ってくれ、心も癒される。初めてのスパ体験だったが、それは施術だけでなく、その前後の時間まで楽しませてくれると知った。現実世界からそこだけ切り取られたような特別な時間だった。

14:00チェックアウトのため、スパの後も部屋でゆっくりしてから、朝食を振り替えたランチへ。時間に余裕のある滞在は心にも余裕を持たせてくれる。

さて今回は、ウェスティンホテル仙台に一泊させていただいたお

かげで仙台の街を夕刻に散歩することができた。考えてみれば一番変わったのは仙台の街を歩く自分自身であった。この建物は大地震に耐えたのだな、とか、子供と一緒にでも入れる店だな、と、ただ自分が楽しむだけでなく、いろいろな視点で見ることができるようになっていた。10年ひと昔と言うが、8年というひと昔たないうちに仙台の街は多くが私にとって変わっており、同時に多くの所が昔と変わらず残っていた。さらに10年後にはどうなっているのか、2023年という近そうできてなんでも起こりうる未来の仙台を想像することは難しいが、そこに住む人や観光で訪れる人をすぐに受け入れてくれる優しい街であってほしいと思う。自分もまた転勤により移動するだろうけれど、いつかまた仙台に帰ってきたいと思いつけていくのは変わらないと思う。

今回、宮城仙台を楽しんだ記憶はずっと残っていくはずだ。何年後かまた同じような体験をし、今日のことを思い出したいと心から思う。